

(社)雨水貯留浸透技術協会・(社)土木学会関東支部群馬会より感謝状授与

辻 幸和 教授

(社)雨水貯留浸透技術協会より、社会環境デザイン工学専攻の辻幸和教授に対して、感謝状が授与された。感謝状授与は、平成21年6月3日に開催された通常総会において、会長の高橋裕東京大学名誉教授より行われた。雨水貯留浸透技術評価認定委員会の長年に亘る委員長の業務に対してである。

(社)雨水貯留浸透技術協会の雨水貯留浸透技術評価認定委員会は、平成8年9月に設置され、辻教授は梅野康行委員長の下で、副委員長として、3年半支援した。そして平成11年12月より、委員長を本年の4月まで約10年務めた。

委員会は、地下貯留浸透施設の「貯留材」を主体にした「貯留槽」の技術評価と認定を行う。「貯留材」には、コンクリート製、プラスチック製、および砕石のものがある。「貯留槽」はまた、遮水シート、透水シート、または保護シートが付加され、「付帯施設」は、流入施設、放流施設、維持管理施設（点検口、沈砂槽等）があり、そして貯留槽およびそれに作用する荷重を地盤に伝える「基礎」より構成されている。そのような多種多様な製品である「貯留槽」の技術評価と認定は、境界領域の課題を克服し総合的に判定して初めてなすうる。

これまで(社)雨水貯留浸透技術協会において認定され、製品化されている地下貯留施設は、プラスチック製が12件、コンクリート製と土砂などが7件であり、【協会技術推薦工法】も数件を数えている。いずれの認定においても、辻教授が各分野の専門家の委員の意見を取りまとめて実施した。このような業務に対しての、感謝状の授与である。

辻教授はまた、平成20年11月14日に(社)土木学会関東支部群馬会の創設20周年記念式典が開催された折、会長の川瀧弘之 群馬県県土整備部部長より、感謝状が授与された。創設時からの幹事長として貢献に対してである。

群馬会は、群馬県に在住または勤務する、土木関係業務に従事する方々、および土木技術に関心のある市民の方々の親睦交流を行い、土木工学および土木事業の発展に寄与するとともに、土木学会についての意識の高揚を図るために、平成元年7月1日に設立され。群馬会では、国、県、市町村、学校、産業界、建設業界、鉄鋼業界、コンサルタント業界から幹事を選出し、各界から技術者や研究者などが会員になって活動を行っている。

平成21年6月30日に開催された群馬会の第21回通常総会に於いて、辻教授は顧問に推挙された。我々としても辻教授の長年の多大なるご貢献に感謝する次第である。